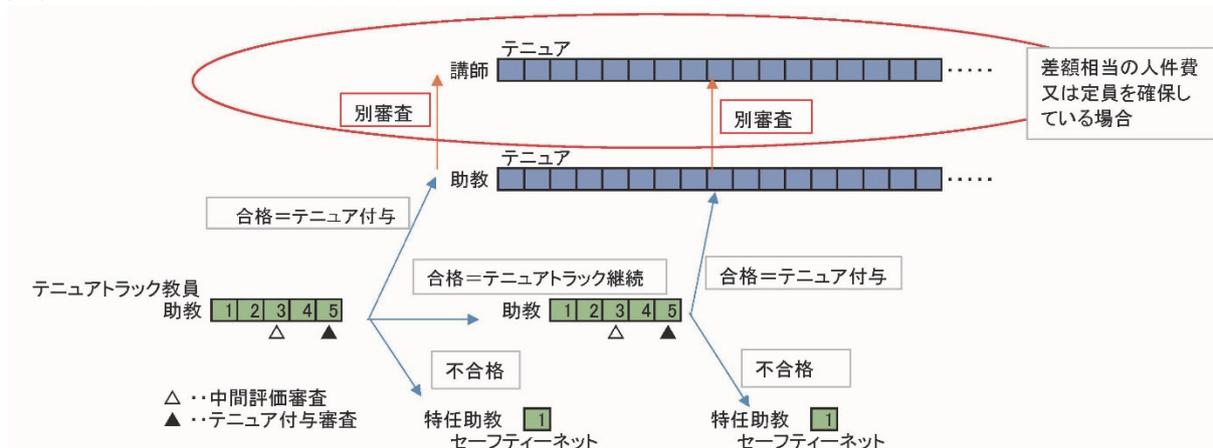
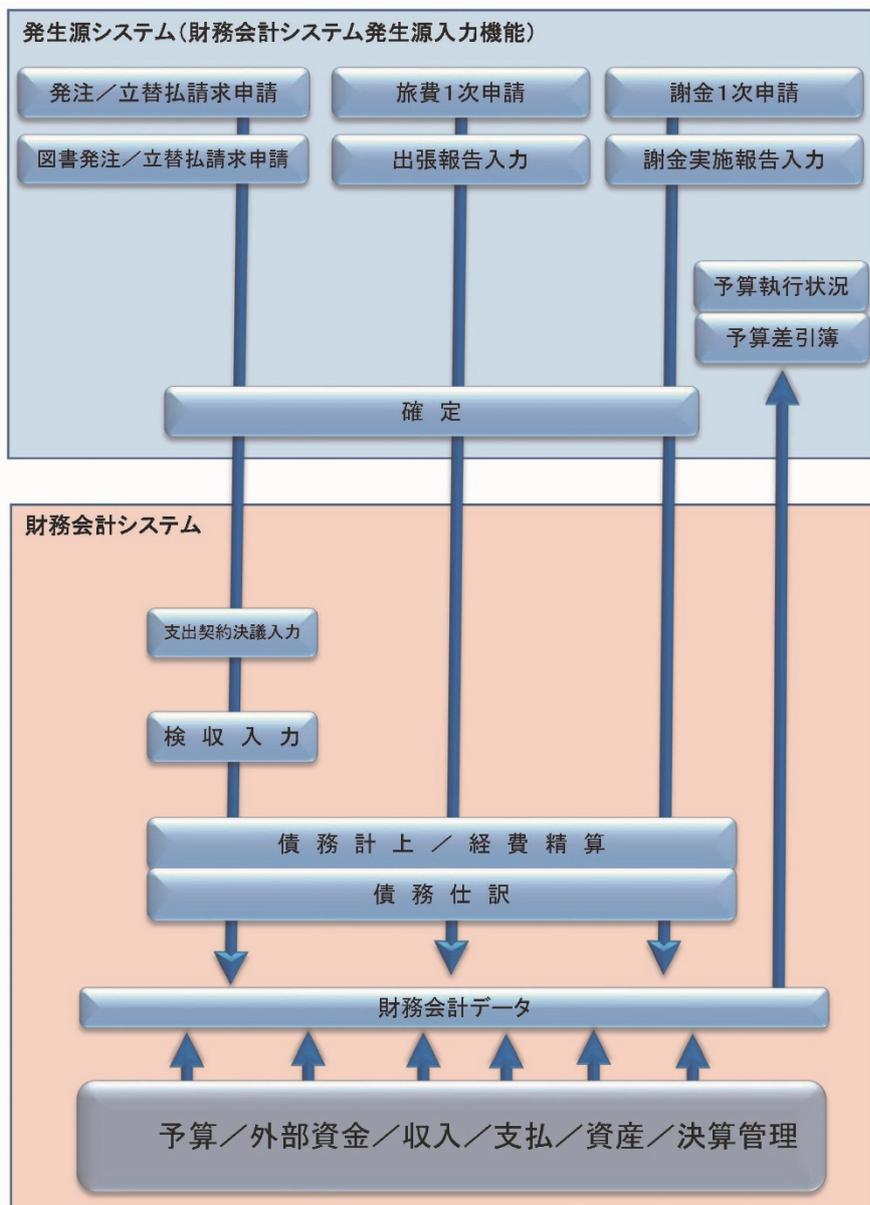


資料 5-1 テニユアトラック制度



資料 5-2 新財務会計システム



資料 5-3 「ベーシックトレーニング Basic Training」 ウェブシステム

名古屋大学大学院医学系研究科 医学部医学科
Nagoya University Graduate School of Medicine

大学院教育
Master & Doctoral course

← Back Top>大学院教育>授業案内>「ベーシックトレーニングBasic Training」>【重要】平成30年度 基礎医学実習申込について / 【Important】Registration for Basic Training Course in 2018

【重要】平成30年度 基礎医学実習申込について / 【Important】Registration for Basic Training Course in 2018

【重要】平成30年 度基礎医学実習（ベーシックトレーニング） 履修申込方法について

平成30年度 基礎医学実習（ベーシックトレーニング） 履修申込をWeb上にて行うこととなりました。

以下の各欄一覧を参照し、Webにて申込を行ってください。

Starting from Spring 2018, registration for Basic Training Course is proceeded through online.

Check the 2018 course lists below, and apply for the courses you want to register.

【学生ログインページ/Log-in page】 <https://owl.med.nagoya-u.ac.jp/login>

※名ID、PASSでログインできます。Registration requires Nagoya University ID and password.

ユーザー名 サインアウト Sign out

名古屋大学大学院医学系研究科「基礎医学実習」受講申込
Nagoya University Graduate School of Medicine Basic Training Course Registration

受講申込フォーム
Course Registration Form

実習アンケート
Course Evaluation

実習アンケート Evaluation of basic Training Course by Student

受講コースNo.
Course Number

※以下の設問には約2分で最も適切なものを先選択して下さい。
Select the most appropriate answer for each question below.
※アンケート結果は匿名となります。
This result is disclosed anonymously.

A. 実習の所要時間（教日にわたって実施された場合は、合計時間）
How long was the course in total?

2時間未満
Less than 2 hours

2時間～4時間未満
2-4 hours

4時間～6時間未満
4-6 hours

6時間～12時間未満
6-12 hours

12時間以上
More than 12 hours

B. 実習の内容
What was the format of the course?

講義のみ
Lecture

実習・実演
Practical training

講義と実験の両方
Lecture and attendance to experiments

講義と実習・実演
Lecture and practical training

その他（対話形式等）
Other (Interactive type, etc.)

C. 実習の内容は理解できたか
Could you understand the content of the course?

理解できなかった
No

あまり理解できなかった
Not very well

どちらともいえない
So-so

ある程度理解できた
Well

理解できた
Very well

D. 教員の熱意は感じられたか
Was the instructor enthusiastic?

感じられなかった
No

あまり感じられなかった
Not very

どちらともいえない
So-so

ある程度感じられた
Quite

感じられた
Very

E. 教材（配布資料）は適切であったか
Were the teaching materials and methods appropriate?

適切ではなかった
No

あまり適切ではなかった
Not very

どちらともいえない
So-so

ある程度適切であった
Quite

適切であった
Very

F. 今後の研究に有用な実習であったか
Did the course help your future research?

有用ではなかった
No

あまり有用ではなかった
Not very

どちらともいえない
So-so

ある程度有用であった
Quite

有用であった
Very

G. 自由記入欄（改善してほしい点、良かった点等を記載して下さい）
Comments (Explain features to be improved, to be appreciated, etc.)

アンケートを送信する
Submit

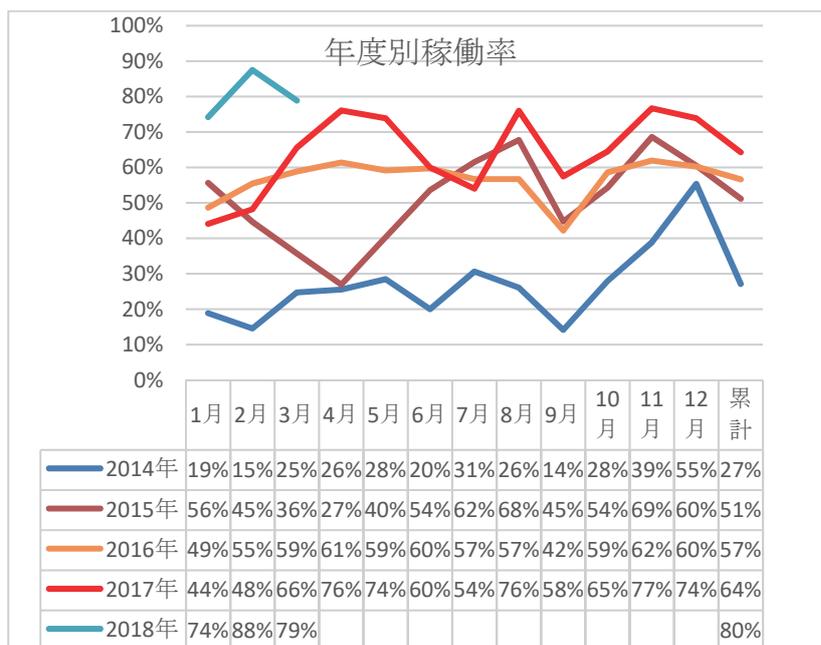
資料 5-4 ドナルド・マクドナルド・ハウスなごやの概要と稼働率

上段：ドナルド・マクドナルド・ハウスなごやの外観

下段左：ベッドルームは完全個室

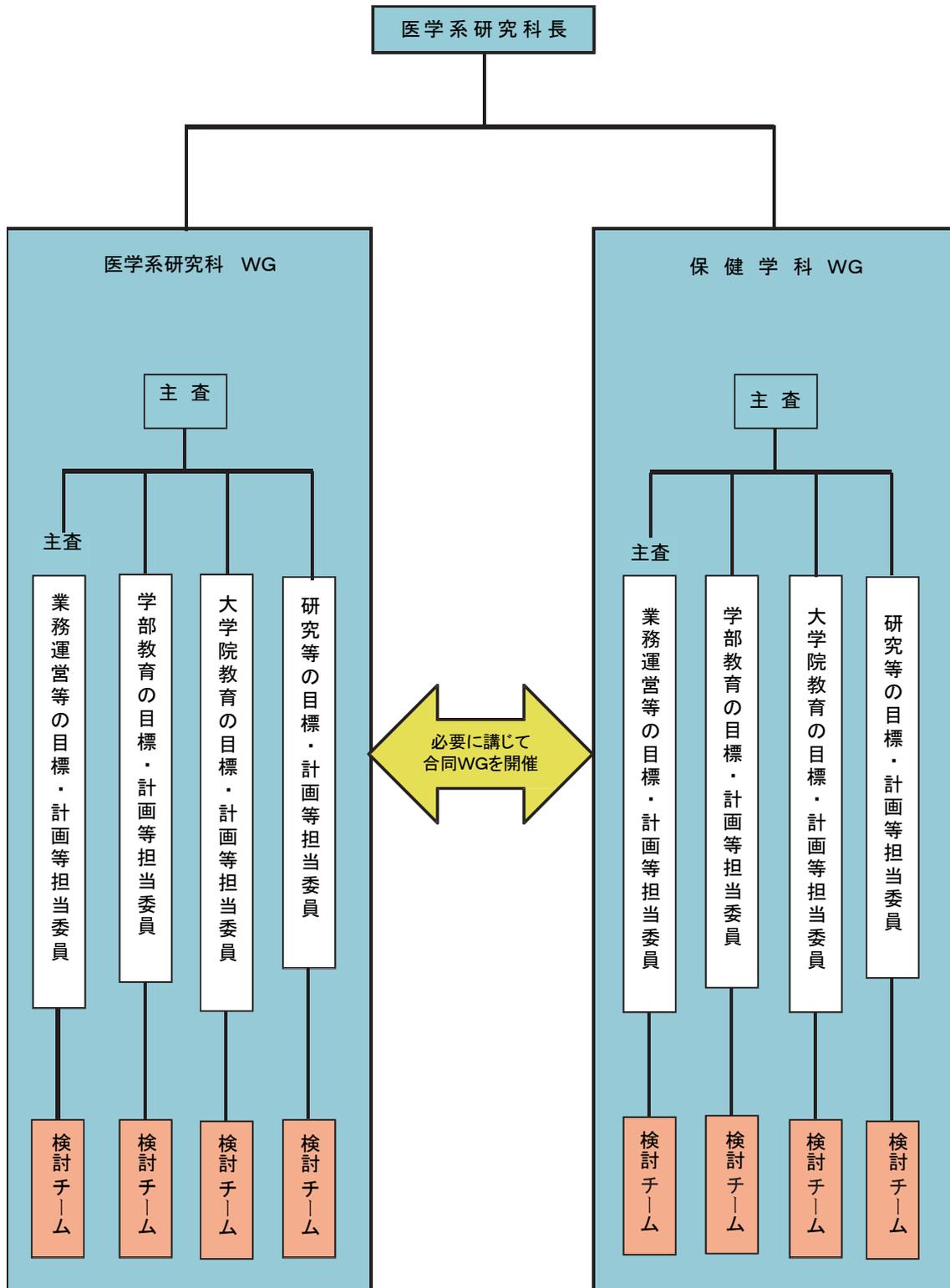
下段中：広々とした共用キッチン

下段右：各部屋の案内には子供が親しみやすいように動物マークで



- 2014年1月の運営開始以来、部屋稼働率は27%・51%・57%・64%・76%と年々増加傾向にある。これは看護師・医師をはじめ病院スタッフが積極的に紹介するようになった為と利用規約を緩和したことによる。
- 一度利用した人は、利便性や快適さを理解され再利用されることが多い。
- 月の利用家族は50～60家族で、毎月10家族ほどの新規利用がある。
- 地域別の利用者は三河エリア中心の愛知県が43%だが、それ以外、全国各地からの利用がある。
- 科別には小児科・小児外科・脳外科が主であるが、その他の科にも広がっている。特にNICUでの利用が増えてきた。

資料 5-5 医学部・医学系研究科における第三期中期目標・中期計画等検討 WGイメージ図



資料 5-6 中央診療棟B



中央診療棟Bフロアマップ



階数	診療科等
6F	会議室
5F	手術部
4F	外科系集中治療室 (SICU)
3F	中央診療棟病床
2F	光学医療診療部 / 総合医学教育センター / クリニカルシミュレーションセンター / 卒後臨床研修・キャリア形成支援センター
1F	外来化学療法室 / クリニカルシミュレーションセンター
B1F	放射線治療室B

資料 5-7 医学部・医学系研究科のグランドデザイン

医学系研究科のグランドデザイン2018 **新しい医学・医療により、人類の福祉に大きく寄与する**
 ~ 国民の信託に応える ~

Vision 最高の教育力・診療力を基盤に世界トップの研究力を育み、医学・医療を開拓する

<p>文化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学問を尊重し研究を大学活動の第一義とする文化。 ・研究に夢中になる環境の醸成。 ・博士課程の質の向上。 	<p>環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・編制・入卒の統合的組織改革。 ・基礎と臨床の隔るキャンパス内連携促進。 ・総合オミクスTR/IRセンターの設置。 ・動物実験施設の増設。 ・臨床研究支援体制強化。 	<p>国際化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際共同研究のプラットフォームの発展。(JDP・JSP・GAME) ・卓越大学院の整備。
<p>アクションプラン① 研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆研究支援 <ul style="list-style-type: none"> ・動物実験施設の増設、研究ツール・リソースの共有化。 ・臨床研究支援体制強化（ワンストップ相談窓口の開設） ・学術施設情報室 ・統合オミクスTR/IRセンター ・注力分野設定 ・WPI next ◆連携 <ul style="list-style-type: none"> ・キャンパス内連携（プレミアムレクチャー、教授フラッシュトーク） ・学内連携（ITbM、情報学、工学） ・地域連携（病・病連携、岐阜大G-Chain、名工大） ・産学連携（Public Private Partnershipの構築） ・国際化（JDP、JSP、GAME） 	<p>アクションプラン② 教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆大学院 <ul style="list-style-type: none"> ・卓越大学院 ・臨床研究医育成 ・基礎研究者への知財 ・博士課程の質保証（博士審査評価システムの改善） ・産学官連携：大学院産学連携セミナー ◆学部・大学院シームレス教育 <ul style="list-style-type: none"> ・教育専門教授 ・分野別認証評価 ・入試改革 ・研修医獲得拡大と医局・研究への早期暴露 ・基礎研究医育成 ・国際化教育（GAME、マンスフィールド型海外研修、優秀な留学生） ・生命倫理、研究倫理 	<p>アクションプラン④ 運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆指標 <ul style="list-style-type: none"> ・評価指標・ベンチマーク ・研究室毎の研究力向上対策 ・教授懸念 ・教員育成のあり方改革 ・改革オーガナイザー ◆組織 <ul style="list-style-type: none"> ・鶴岡・大卒の統合的組織改革 ・愛知県がんセンターとの包括的協定 ・教授選考（研究カマトリクスの活用） ・財政基盤の確立 ・女性・外国人の積極的登用 ・学部学生、大学院学生の多様性（出前授業） ◆キャンパス <ul style="list-style-type: none"> ・創基150周年表 ・キャンパス整備（キャンパスアイデンティティ、キャンパス内案内・事務書類の英語化）
<p>アクションプラン③ 診療(病院)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆臨床研究支援組織 <ul style="list-style-type: none"> ・がんゲノム拠点病院、未診断疾患イニシアチブ（IRUD） 		

UNIVERSITY SCHOOL OF MEDICINE

資料 5-8 名古屋大学大学院医学系研究科・医学部医学科 トップページ画像

資料 5-9 名古屋大学大学院医学系研究科

国際連携総合医学専攻 ジョイント・ディグリー・プログラム トップページ画像



資料 5-10 名古屋大学大学院医学部・医学系研究科

名古屋大学特定基金医学系未来人材育成支援事業 トップページ画像

名古屋大学医学部・医学系研究科



名古屋大学特定基金
医学系未来人材育成支援事業

ご支援のお願い

研究科長からのごあいさつ	医学系未来人材育成支援事業の概要	ご協力をお願いしたい寄附金
ご寄附いただいた方への特典	寄附をする	お問い合わせ

研究科長からのごあいさつ

名古屋大学医学部は1871(明治4)年に名古屋藩の医学校、後病院として発足して以来、140年を超える歴史と伝統を持つ、我が国で最も古い医学部の1つです。名古屋大学は1939年に医学部と理工学部からなる7番目の帝国大学となり、第2次世界大戦後の1949年に新制名古屋大学として再出発しました。2000年には医学部が大学院に重点を置く運営体制に改編され(大学院重点化)、大学院組織である医学系研究科を中心とした組織として生まれ変わり、学生、大学院生の教育、研究を推進しております。

名古屋大学医学部・医学系研究科は地域医療に貢献する医療人の育成を行うとともに、研究大学として世界に向け多くの優れた基礎研究、臨床研究を発信し、病気のメカニズムの解明や新たな診断・治療法の開発研究を推進する役割を担っています。2004年の国立大学法人化以降、大学への運営費交付金が年々減少し、大学運営も厳しさが増していますが、前途有望な学生、大学院生のための教育、研究環境の改善、充実を行う予算の確保・充実に努めているところです。

このたび、「名古屋大学基金」に高附金を特定の部局事業に活用できる「特定基金」制度が新設されました。医学部・医学系研究科では、この「特定基金」制度を用いて「医学系未来人材育成支援事業」を創設し、皆様のご支援により、学生、大学院生のための教育、研究環境の改善、充実を進めたいと考えております。趣旨にご賛同いただき、格段のご協力を願いますことをよろしくお願い申し上げます。

名古屋大学大学院医学系研究科長
名古屋大学医学部長

門松健治

資料 5-11 医系研究棟 3号館



資料 5-12 立体駐車場



資料 5-13 附属図書館医学部分館
年間指定席

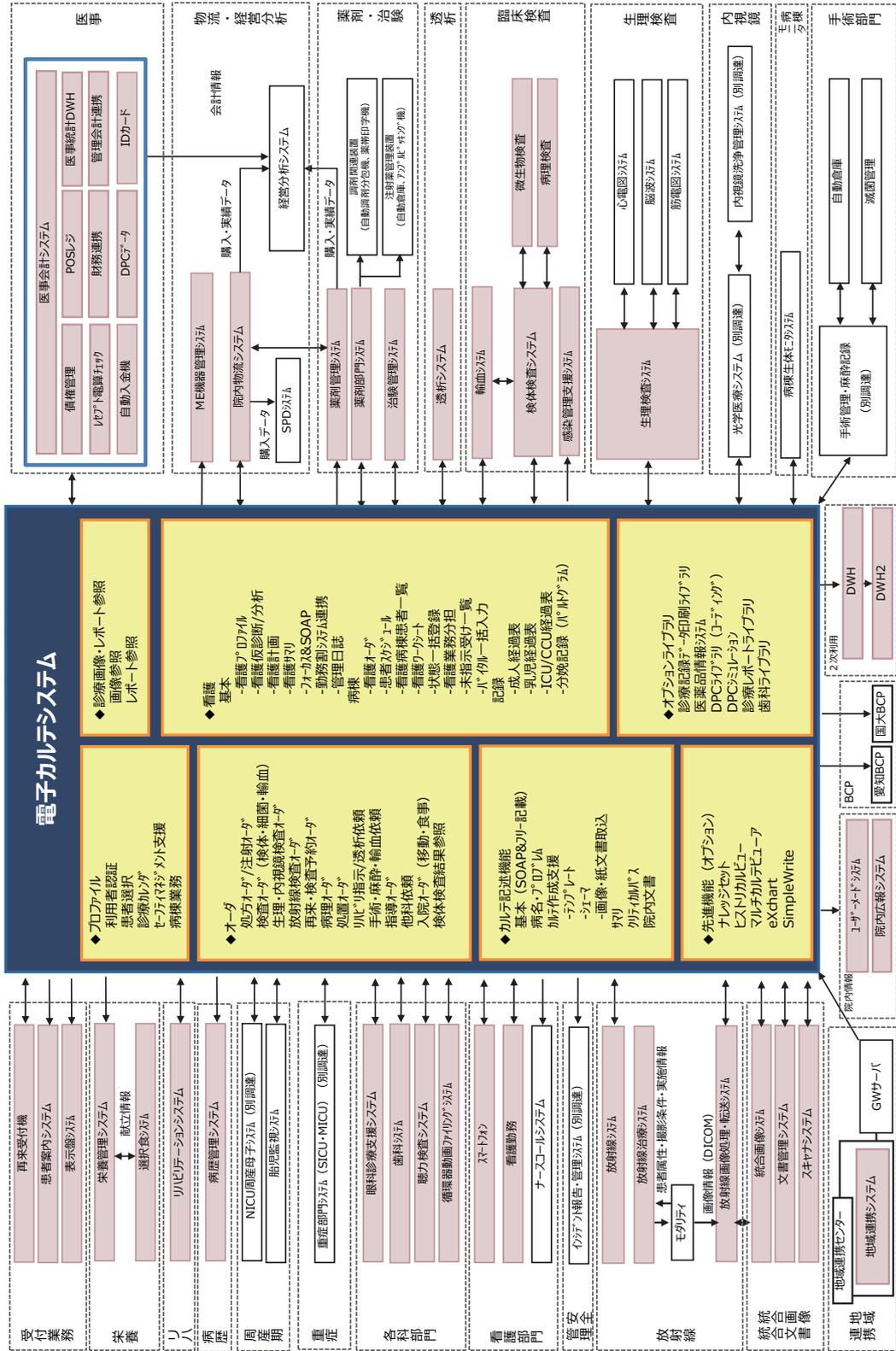


PC席



資料 5-14 第7次病院総合情報システムの導入

病院総合情報システム全体構成



資料 5-15 入院案内センター



資料 5-16 アイソトープ総合センター分館



施設入り口(医系研究棟3号館1階ホール)



管理区域入口



共通機器室

汚染検査室

資料 5-17

インシデントレポートの自動分類機能

特許第6172694号「レポートの分類システム」

